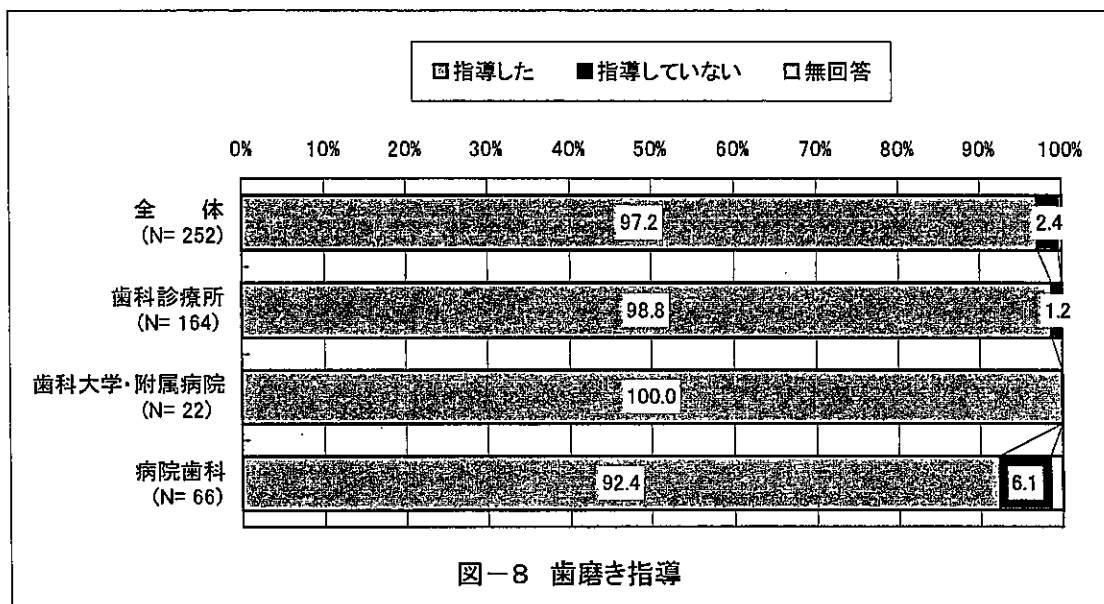


## 7) 歯磨き指導

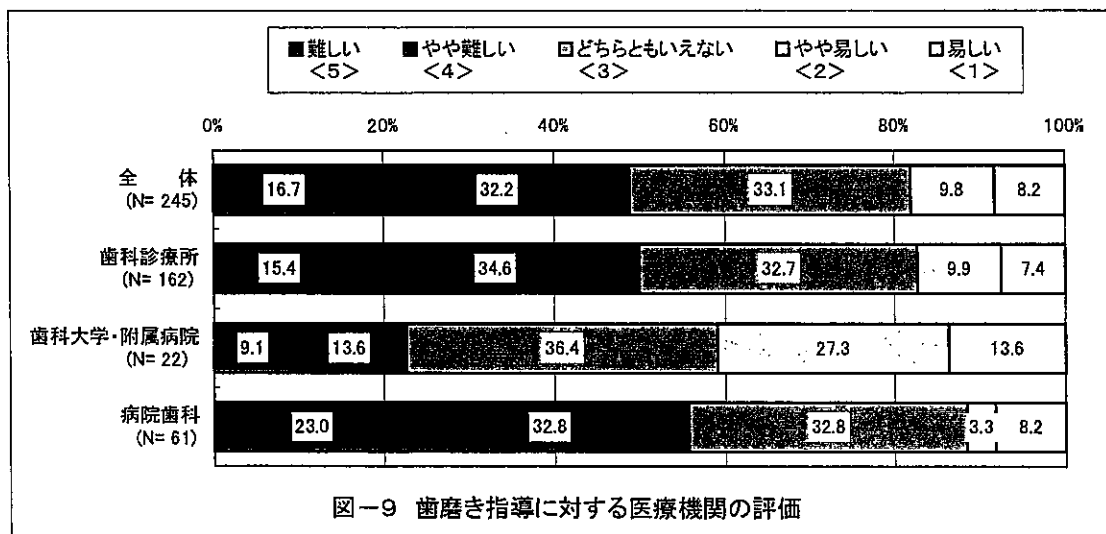
歯磨き指導についての回答を全体で見ると、「指導した」が97.2%、「指導をしなかった」が2.4%であった。

医療機関の種類別に見ると、「歯科診療所」の98.8%、「歯科大学・附属病院」の100.0%、「病院歯科」92.4%が「指導した」と回答した(図-8)。



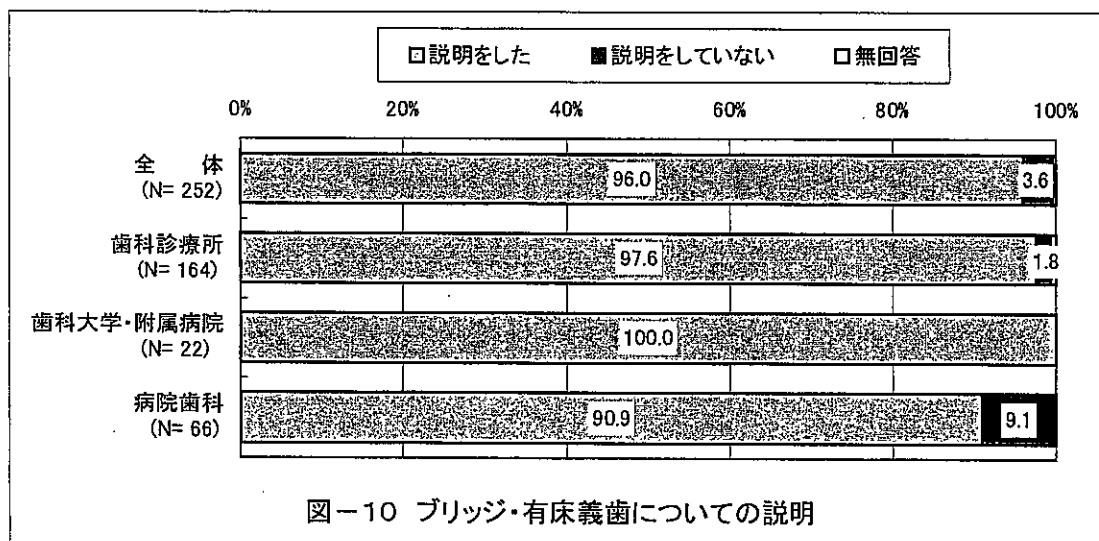
## 8) 歯磨き指導に対する評価

歯磨き指導に対する医療機関の評価を全体で見ると、『難しい』が48.9%、『易しい』が18.0%、「どちらともいえない」が33.1%の回答であった。また、医療機関の種類別に見ると、「病院歯科」の55.8%、「歯科診療所」50.0%、「歯科大学・附属病院」の22.7%が『難しい』との回答であった。「病院歯科」や「歯科診療所」に比較して、「歯科大学・歯学部附属病院」が指導を『難しい』と答えた比率は約半分であった(図-9)。



### 9) ブリッジ・有床義歯についての説明

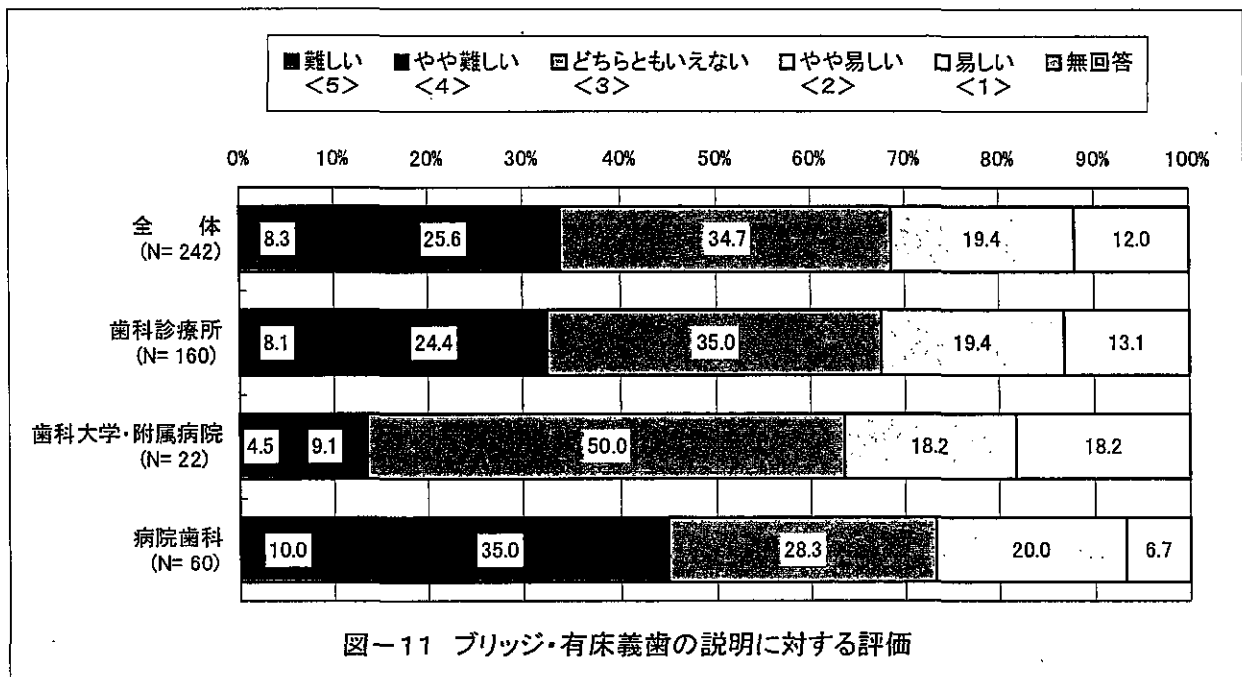
ブリッジ・有床義歯についての説明を全体で見ると、「説明をした」が96.0%、「説明をしていない」が3.6%との回答であった。医療機関の種類別に見ると、「歯科診療所」の97.6%、「歯科大学・附属病院」の100.0%、「病院歯科」の90.9%が、「説明をした」と回答した（図-10）。



10) ブリッジ・有床義歯の説明に対する評価

ブリッジ・有床義歯の説明に対する医療機関の評価を全体で見ると、『難しい』が33.9%、『易しい』が31.4%、『どちらともいえない』が34.7%との回答であった

また、医療機関の種類別に見ると、「病院歯科」の45.0%、「歯科診療所」の32.5%、「歯科大学・附属病院」の13.6%が『難しい』と回答した。「病院歯科」や「歯科診療所」に比較して、「歯科大学・歯学部附属病院」が説明を『難しい』と答えた比率は半分以下であった（図-11）。

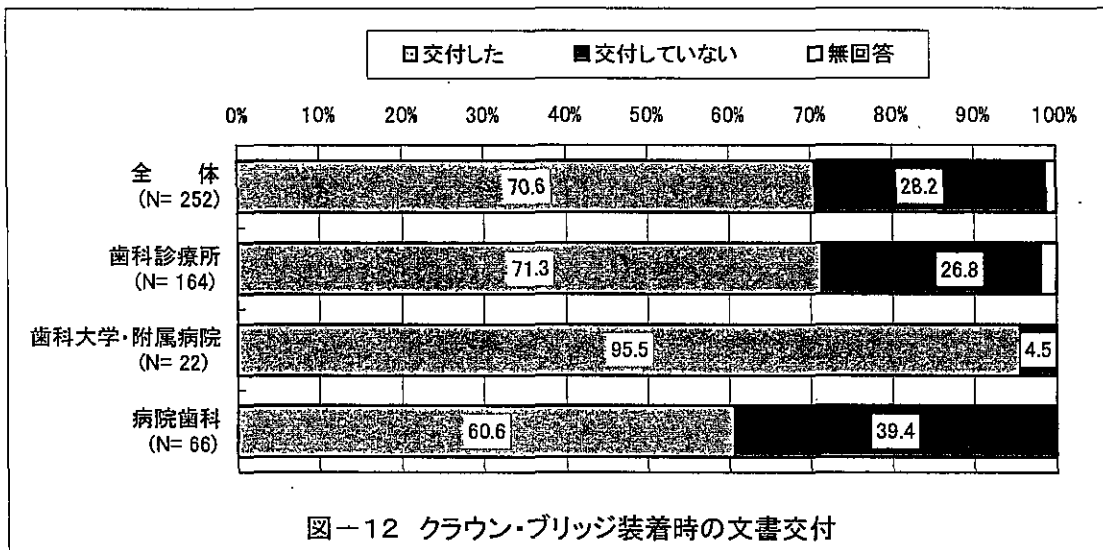


1 1) クラウン・ブリッジ装着時の日付・医療機関名・治療した部位等を記入した文書の交付

クラウン・ブリッジ装着時の文書交付を全体で見ると、「交付した」が70.6%、「交付していない」が28.2%との回答であった。

次に医療機関の種類別に見ると、「交付した」と回答したのは、「歯科大学・附属病院」の95.5%、「歯科診療所」の71.3%、「病院歯科」の60.6%であった。

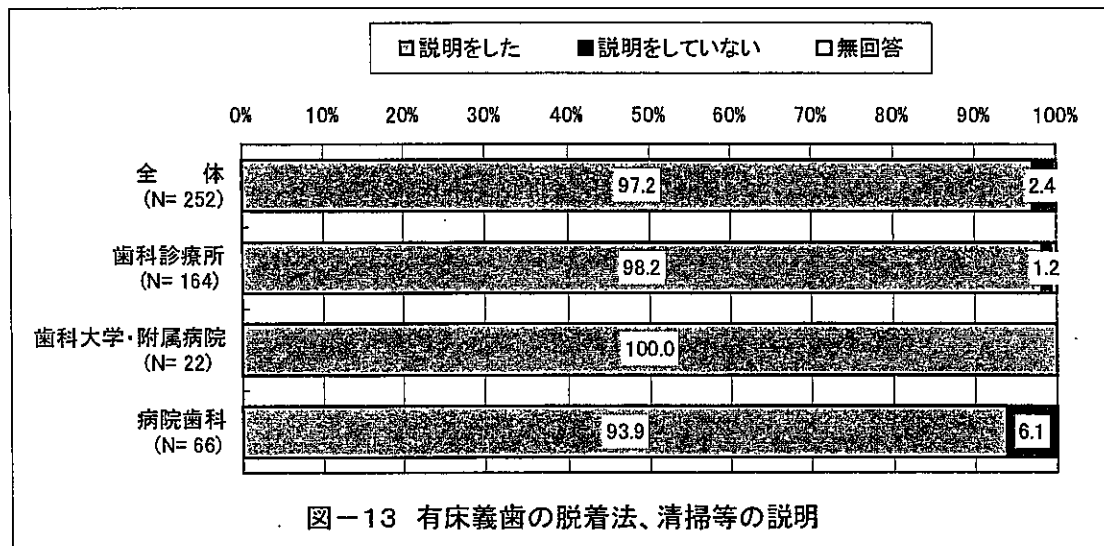
(図-12)。



1 2) 有床義歯の脱着法、清掃等の説明の有無

有床義歯の脱着法、清掃等の説明を全体で見ると、「説明をした」が 97.2%、「説明をしていない」2.4%との回答であった。

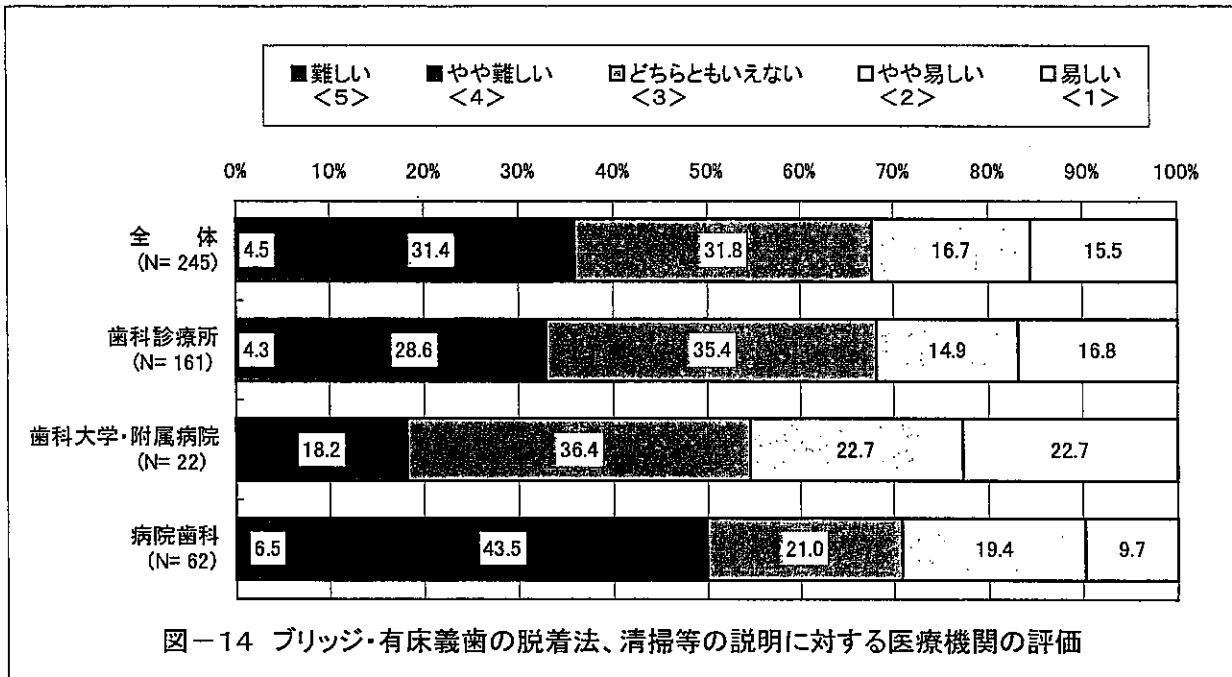
医療機関の種類別に見ると、「説明をした」と回答したのは、「歯科診療所」の 98.2%、「歯科大学・附属病院」の 100.0%、「病院歯科」の 93.9%であった（図-13）。



1 3) 有床義歯の脱着法、清掃等の説明に対する評価

有床義歯の脱着法、清掃等の説明に対する評価を全体で見ると、『難しい』が 35.9%、『易しい』が 32.2%、『どちらともいえない』31.8%との回答であった。

また、医療機関の種類別に見ると、『難しい』と回答したのは、「病院歯科」の 50.0%、「歯科診療所」32.9%、「歯科大学・附属病院」が 18.2%であった（図-14）。



#### 1 4) 医療機関の情報提供についての自由記載

(医療機関タイプ別に主なものを列記した。特に今回のアンケートの趣旨ではないことについては割愛した。)

##### 【歯科大学・附属病院】

- ・ 説明に対する対価が欲しい 3 件
- ・ 口頭で説明後、治療方針を书面化するのに対価として採算が合わない 1 件
- ・ 医療の質を高めるために指針が欲しい 1 件
- ・ 検査結果が出ないうちから予測して文書化するのが困難 1 件
- ・ 患者の治療内容等に差異があるので難易度を一緒にできない 1 件
- ・ 個人情報保護法の対応の検討が必要 1 件

説明や文書化に要する時間への対価を求めている。

##### 【病院 歯科】

- ・ 情報提供は当然である 2 件
- ・ 情報提供を制度として規定するのはおかしいし、対価がない 2 件
- ・ 初診料の点数が低い 2 件
- ・ 情報提供を书面化する時間がない 2 件
- ・ 書面による情報提供が良いとは言えない 2 件

情報提供に積極的な意見、「文書化」に対する対価を求める意見、口頭で説明したほうが患者にとって良い場合もあるという意見がみられた。

##### 【歯科診療所】

- ・ 文書による情報提供がよい場合と悪い場合がある 7 件
- ・ 情報提供を作成する時間がない（手間がかかる） 5 件
- ・ 今後、電子カルテやパソコン等の機器を駆使した情報提供が必要 3 件
- ・ 人間味のある情報提供が必要 3 件
- ・ 「かかりつけ歯科医初診料」と「歯科初診料」を区別する必要はない 2 件
- ・ 歯科初診料の点数が低い（診療報酬の見直し） 2 件

- ・ 情報提供の全国統一化 2 件
- ・ 口頭説明と文書での説明は同じである 2 件
- ・ 情報提供がうまく伝わるかが不安である 2 件
- ・ 情報提供の推進 2 件

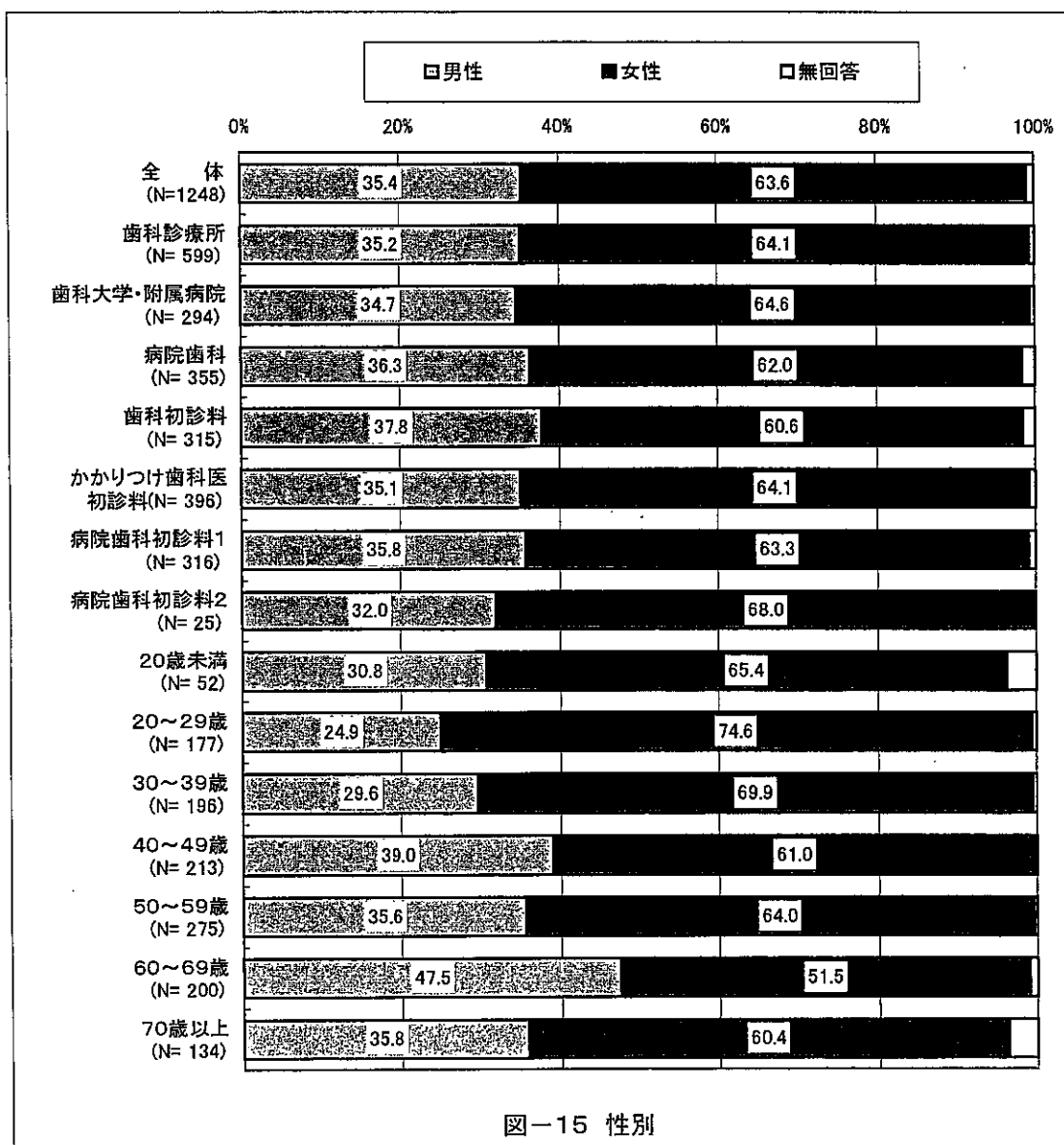
文書による情報提供より「口頭説明」の方が良い場合があるとの意見、情報提供を推進すべき方向性や方策についての意見、文書化に対する対価を求める意見が多い。



## 2. 患者

### 1) 性別について

性別に全体で見ると、「男性」が 35.4%、「女性」が 63.6%との回答であった。また、医療機関の種類別に見ても初診料の算定別に見てもその傾向は殆ど変わらなかった。年代別では 20 代の女性の割合が最も高く、60 歳代ではほぼ拮抗していた(図-15)。

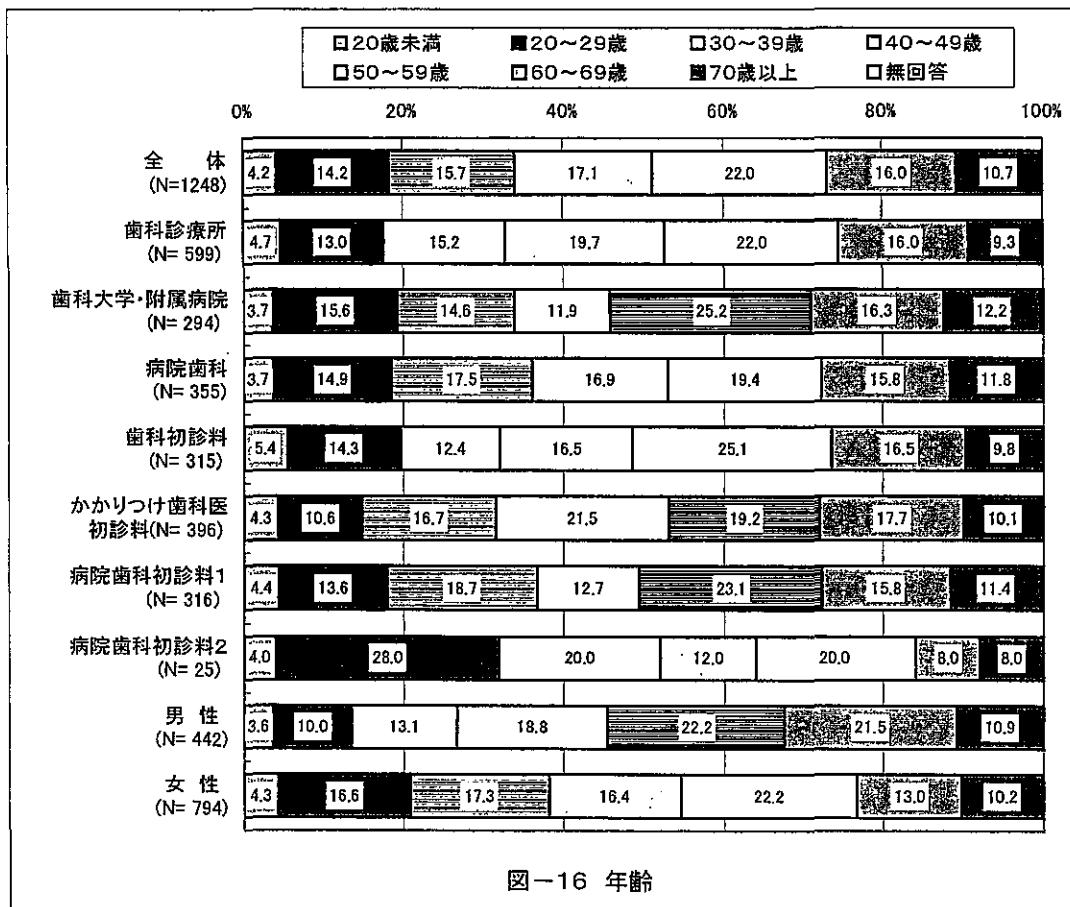


## 2) 年齢について

年齢についての回答を全体で見ると、「50代」が22.0%、「40代」17.1%、「60代」16.0%、「30代」15.7%、「20代」14.2%、「70代」10.7%、「20歳未満」が4.2%であった。年齢の平均は47.41歳、標準偏差は17.42であった。

医療機関の種類別に見ると、歯科診療所では、「50代」が22.0%、「40代」が19.7%、「60代」16.0%、「30代」が15.2%との回答であった。歯科大学・附属病院では、「50代」25.2%、「60代」16.3%、「20代」15.6%、次いで、「30代」の14.6%との回答であった。病院歯科では、「50代」19.4%、「30代」17.5%、「40代」16.9%、「60代」15.8%との回答であった。

一方、初診料の算定別にみると、歯科初診料では、「50代」が25.1%、「40代」と「60代」が16.5%、「20代」が14.3%との回答であった。かかりつけ歯科医初診料では、「40代」が21.5%、「50代」が19.2%、「60代」が17.7%、「30代」が16.7%との回答であった。病院歯科初診料1では、「50代」が23.1%、「30代」が18.7%、「60代」が15.8%、「20代」が13.6%との回答であった。病院歯科初診料2では、「20代」が28.0%、「30代」と「50代」が20.0%、「40代」が12.0%であった。(図-16)。



### 3) 受診した医療機関について

受診した医療機関を全体で見ると、「歯科診療所」が 48.0%、「病院歯科」28.4%、「歯科大学・歯学部附属病院」が 23.6%との回答であった。

また、初診料の算定別に見ると、歯科初診料と回答したうちの、64.4%が「歯科診療所」、35.6%「が病院歯科」であった。かかりつけ歯科医初診料は、100.0%が「歯科診療所」であった。病院歯科初診料 1 のうちの、75.9%が「歯科大学・附属病院」、24.1%が「病院歯科」であった。病院歯科初診料 2 では、「病院歯科」が 92.0%、「歯科大学・附属病院」8.0%であった。性別での差はみられなかった（図-17）。

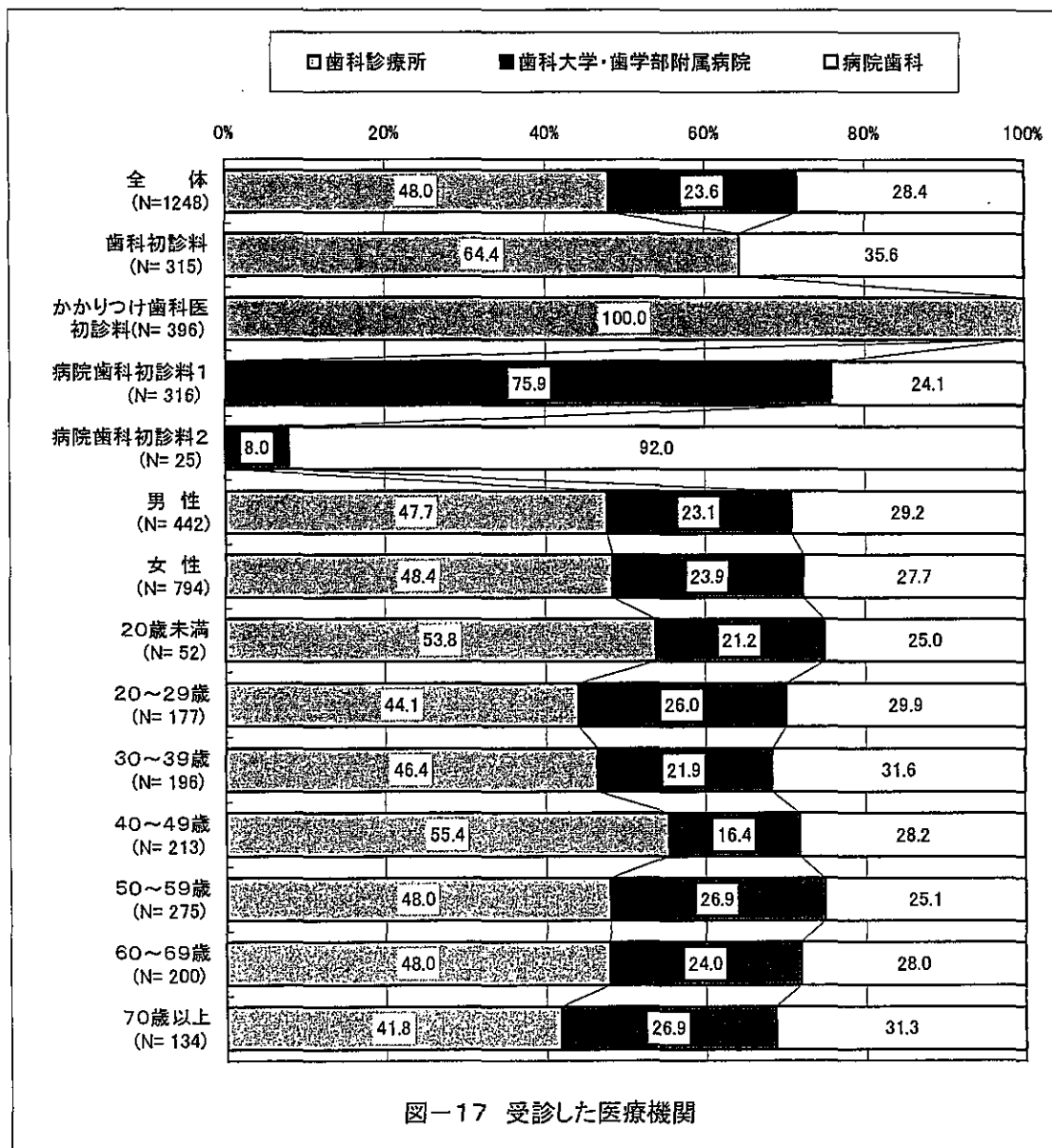


図-17 受診した医療機関